大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

Press Release

イベント通知

2026年5月26日

令和8年度　適塾特別展示
シリーズ生誕200年記念～その伍
日本近代製鉄の父・大島高任と八人の医師たち
【5/26(火)～6/7(日)@適塾】

❖ **概要**

大阪大学適塾記念センターは、2026 年、日本近代製鉄の父・大島高任(おおしまたかとう)をはじめとする 9 名の適塾門下生が生誕 200 年を迎えるにあたり、**5 月 26 日(火)から 6 月 7 日(日)**の期間、適塾にて特別展示「**シリーズ生誕 200 年記念～その伍 日本近代製鉄の父・大島高任と八人の医師たち**」を開催します。

大島高任は安政 4 年(1857)に盛岡藩の甲子村大橋(現釜石市)に高炉を建設し、日本で初めて鉄鉱石製錬による出銑操業を成功させました。鉱業の近代化に尽力する一方で、私塾・日新堂の設立や工学寮(現東京大学工学部)の創設など、新時代の人材育成にも取り組みました。織田(伊東)貫斎は、蘭方医・伊東玄朴(1801-71)の養子となり、幕府奥医師に任命され、米国使節ハリスの重患を治療しました。大垣藩医の江馬信成は、師・緒方洪庵の大著『扶氏経験遺訓』を用いて門人の医学教育に携わり、大坂で開業医となった梅谷慊堂は師と同じくコレラの大流行に対峙しました。宇陀松山の医師・久保良平は、洪庵の種痘事業の一翼を担い、大和国への種痘普及に努めました。このほか、岡山県病院に参画した津下精斎、利根郡医・群馬良三など、全国各地で地域医療に貢献をなした多彩な人物がいます。

近代国家を支える技術革新、次世代の人材育成、感染症対策、地域医療の発展など、多方面において日本近代化の礎を築いた生誕 200 年の適塾門下生の事績に迫ります。

つきましては、適塾記念センター等が所蔵する実物の資料をご覧いただく貴重な機会となりますので、本展の積極的なご周知・ご取材をよろしくお願いいたします。


大島高任肖像
(釜石市提供)


久保良平肖像
(久保医院提供)

❖ **開催要項**　※主要な展示とみどころは 2 ページ参照

【会期】　5 月 26 日(火)～6 月 7 日(日)
※6 月 1 日(月)は休館

【会場】　適塾(史跡・重要文化財)　大阪市中央区北浜 3-3-8

【参観料】　一般　400 円(20 名以上の団体　300 円)
高校生・大学生　200 円(同上　100 円)
中学生以下　無料(引率者が必要)

【開館時間】　午前 10 時～午後 4 時

【主催】　大阪大学適塾記念センター、適塾記念会

【協力】　釜石市教育委員会、久保医院




伊東貫斎肖像
(『伊東玄朴伝』より)

❖ 主要な展示とみどころ

日本最古の高炉操業記録

「大橋製鉄日記」（図 1）

砂鉄ではなく鉄鉱石を原料とした鉄が必要だと確信した大島高任は、良質の鉄鉱石が採れる甲子村大橋に西洋技術をもって高炉を建設し、安政 4 年 12 月 1 日（1858 年 1 月 15 日）、操業に成功しました。安政 5 年に大島高任によって記されたこの日記は、日本最古の高炉操業記録とされています。鉱石比、木炭比などをいろいろと変化させて試行錯誤した克明な記述があり、高任の苦労がうかがえます。



図 1 大島高任「大橋製鉄日記」
安政5年（1858） 釜石市所蔵

師の種痘事業の一翼を担う

「疱瘡済証」（図 2）

久保良平は、大坂除痘館から分苗を受け、宇陀を拠点として大和国の種痘伝播に尽力しました。自らの医院を宇陀除痘館としたと考えられ、地域の人々に種痘を施し、被接種者には「疱瘡済証」（種痘済証）が発給されました。済証の包紙には、被接種者の名前・年齢・接種日が書かれ、「今後痘瘡に似た症状が出れば、この証札をもって早く当館に申し出るように」と、大坂除痘館での様式に倣って作られたことが分かります。

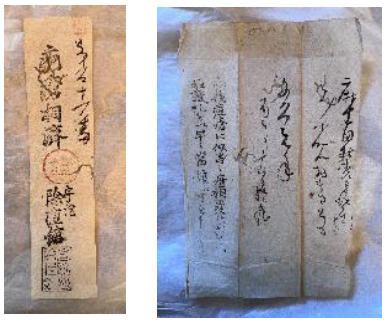


図 2 宇陀除痘館『疱瘡済証（包紙付）』
文久元年（1861） 久保医院所蔵

兄弟でコレラに立ち向かう

「印度霍乱説」（図 3）

安政 5 年（1858）、日本を襲うコレラ流行に、緒方洪庵が『虎狼痢治準』を緊急出版し治療指針を示したことはよく知られています。梅谷慊堂も、同じく医師であった兄左門と共著でコレラ治療書『印度霍乱説』を上梓しました。治療の経験に基づく薬術と治療法が示され、「医者や者が工夫をめぐらせれば、九死に一生を得ることもあるだろう」「その他の急病にも裨益するところがあるのではないか」と述べています。師と同じく、死に至る病から人々を救おうとする意志に満ちています。

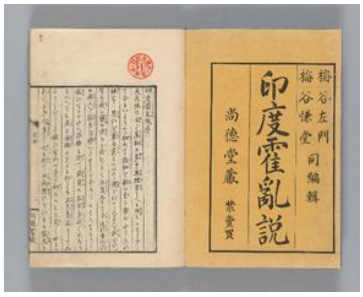


図 3 梅谷左門・梅谷慊堂編輯
「印度霍乱説」
安政 5 年（1858）
大阪大学適塾記念センター所蔵

❖ 適塾と大阪大学

1838 年（天保9年）に緒方洪庵が開いた蘭学塾の適塾は、日本の近代化に貢献する人材を多数輩出しました。1942 年（昭和 17 年）に国に寄付され、洪庵の子息や適塾関係者らによって明治初期に設立された大阪仮病院や大阪医学校を源流とする大阪帝国大学（当時）へ移管されました。以来、適塾の管理・保全に大阪大学が携わってきました。また、大阪大学および 1952 年（昭和 27 年）に設立された適塾記念会は、協同して緒方洪庵と適塾の事跡を調査・研究し、その歴史的重要性を社会に発信してまいりました。両者は、適塾の建物の保全につとめるとともに、緒方家や塾生の子孫の方々をはじめとする多くの方から洪庵や塾生ゆかりの資料の寄贈を受け、その適切な保存と管理にも努めてきました。

2011 年（平成 23 年）、大阪大学に適塾記念センターが設立され、適塾記念会は同センター内に置かれることになりました。大阪大学はこれらの活動を継承するとともに、さらなる進展を目指しています。

❖　適塾記念センターの主な行事

適塾記念センターは適塾特別展示等の行事を開催し、適塾に関する調査研究の成果を広く一般の方々に公開しています。

❖　アクセスマップ



＜公共交通機関＞
京阪電車　淀屋橋駅、北浜駅下車　徒歩5分
大阪メトロ御堂筋線　淀屋橋駅下車　徒歩5分
大阪メトロ堺筋線　北浜駅下車　徒歩5分